



THE 11th

MEDIA UNIVERSAL DESIGN COMPETITION

第11回メディア・ユニバーサルデザインコンペティション受賞作品集



全日本印刷工業組合連合会



全日本印刷工業組合連合会 CSR 推進委員会では、2017年12月に開催いたしました「第11回メディア・ユニバーサルデザイン (MUD) コンペティション」におきまして高い評価を得た作品を、受賞作品集として冊子にまとめました。

今回は全国から227点(一般部門:53点、学生部門:174点)の作品応募をいただきました。これらの作品については審査会で厳正なる審査が行われ、全20点の受賞作品が決定いたしました。

それぞれの受賞作品には審査委員による講評を掲載していますので、メディア・ユニバーサルデザインについてさらに深くご理解いただくためのツールとしてご利用いただければ幸いです。

最後になりましたが、本コンペティションの趣旨にご賛同いただきご後援等を頂戴しました官公庁・企業・団体の皆様、および作品のご応募を頂戴しました皆様、審査会にご参加いただきました審査委員の皆様にご心よりお礼を申し上げます。

全日本印刷工業組合連合会 会長 白田 真人

CSR 推進委員会 委員長 三島 秀夫

第11回メディア・ユニバーサルデザインコンペティション

総 評

11回目となるメディア・ユニバーサルデザイン（MUD）コンペティションでは、これまでにはなかった洗練された作品が入賞し、特に一般の部においては、MUDに対する取り組みの差が作品の出来に明確に現れていた。コンペティションのために作品の企画から始める企業もあるなかで、MUDに取り組み始めた、あるいはこれから取り組む企業は、すぐに同等の作品を制作することは難しいかもしれないが、MUDについてひとつひとつ確認しながらコンペティションに臨んでみてほしい。たとえば自社で製作したチラシやパンフレットなどをMUDに配慮し改良した作品であれば、ゼロから企画するよりも容易なうえ改良前の作品と比較でき、MUDの理解度を確認しやすい。審査においても、作品のアイデアだけではなく、MUDへの配慮が適切になされているかしっかり評価していく。

前回に引続き、福岡県の小学校から出品があり、そのうち1作品が入賞した。入賞作品以外にも非常に細かい工夫を凝らした力作が多くあり、どれを選んでも十分入賞に値する内容であった。子どもしか使わない学用品に限らず、製品のUD化には背が低く力が弱い子どもの視点が非常に大事だが、メーカーはその視点を見逃していることが多いことを改めて実感させてくれた。今回、小学生にはユニバーサルデザインを学ぶ総合学習の一環として考えた斬新なアイデアを作品として出品してもらったが、次回は一歩進んでMUDとしての作品も是非考えてみてほしい。逆に高校生、専門学校生、大学生にはMUDに配慮しつつも、もっと「弾けた」作品を出品してほしいところである。

また、今回のコンペティションでは、カレンダー、防災マニュアル、外国人向けの情報提供といった従来の作品のほかに、学習障がいのひとつ「ディスレクシア（読み書き障がい）」に関する作品が入賞した。2016年度より施行された障害者差別解消法の理念に基づき、ディスレクシアにも配慮した新しいUDフォントが開発されるなど近年注目されている分野であり、今後のMUDの活用を期待したい。



コミュニケーションカード

秋田印刷製本株式会社（秋田県）

関口 純子、安田 恵光、神成 孝幸、西田 早織、三浦 円、
菅生 くるみ

【1P・2P 複写】

【2Pうら】

【用途】

主に、災害時に避難所受付で外国人に記入してもらう日本人とのコミュニケーションツール。
外国人登録者上位の国の言語 8 種類を作成。状況の把握と情報整理、避難者名簿に活用できる。

【仕様】

サイズ：横 110 mm × 縦 232 mm
1 枚目：運営控え
2 枚目：本人控え

【言語】

英語・中国語（簡体・繁体）・韓国語・タイ語・ポルトガル語・スペイン語・タガログ語 計 8 種

Point

工夫点

主に、災害時に避難所受付で外国人に記入してもらう日本人とのコミュニケーションツール。外国人登録者上位の国の言語 8 種類を作成。状況の把握と情報整理、避難者名簿に活用できる。

- ① 2 枚複写になっているので、避難所運営側と外国人で情報を共有できる。
- ② わかりやすいように母国語としている主要国の国旗を掲載。

③ 2 枚目は、コンパクトに 3 つ折りにしてポケットに入れるなど、持ち歩きやすい形態にできる。イラスト付きの使い方、折り目に点線を入れてわかりやすく表示した。

- ④ 指さし会話表にはイラストも添えて、わかりやすくした。
- ⑤ ファイリングもできるように 2 穴加工を施した。



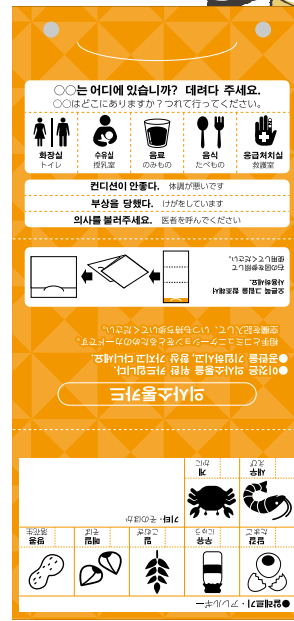
英語版



中国語(简体)版



中国語(繁体)版



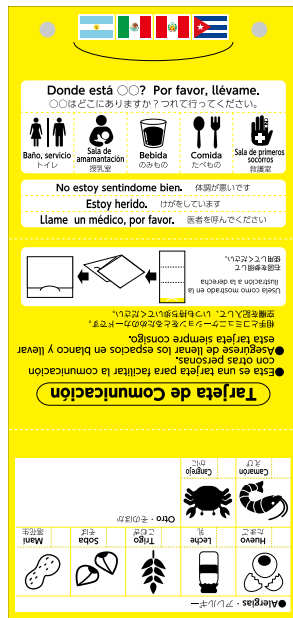
韓国語版



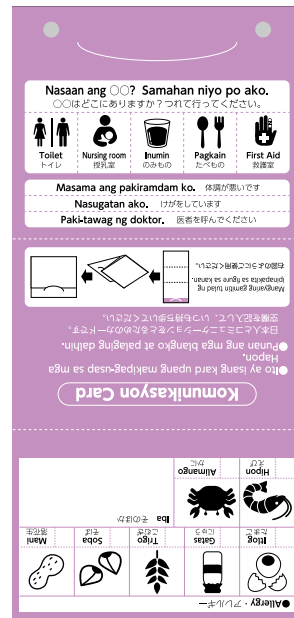
タイ語版



ポルトガル語版



スペイン語版



タガログ語版

Review



講評

災害時、避難所の受付において外国人に避難者情報を記入してもらう際のコミュニケーションツール。一度の記入で避難所の運営者の控えと本人控えの2枚を用意できる複写式やファイリングするための2穴加工、折りたたむための切り込み加工など、従来の印刷の技術を使いながらMUDにも配慮しコンパクトにまとめられている。また、裏面には簡単な会話用のイラストがあり、外国人と避難所運営者の負担を軽減できるよう配慮されている。

外国人向けに複数言語用意する作品は多く見られるが、多くは英語、韓国語、中国語(簡体・繁体)に対応する程度である。この作品ではさらにタイ語、ポルトガル語、スペイン語、タガログ語を加え、外国人登録者数上位の8言語に対応している。災害時には社会的少数者への配慮は滞りがちになってしまうが、これはダイバーシティに配慮した非常に良い作品である。

経済産業大臣賞

学生の部

水の事故防止教室

大阪市立デザイン教育研究所（大阪府）

安藤 綾音



Point

工夫点

水難事故によって毎年多くの方が被害に遭っています。警察庁によると平成 28 年度の水難者は 1,742 人で、そのうち約半数は亡くなったり、行方不明になっています。

このような社会の状況から、私は未然に水難事故を防止したり、事故にあったときや事故を見つけたときも命を繋げるようにしたいと思いました。そこで、自分の命を守れるように、人の命を救えるようになるための教本『水の事故防止教室』

を提案します。

この作品は教育機関での配布を想定して創っています。工夫点は、小学生のような小さな子どもにもわかりやすく、読みやすくなるようにイラスト・漫画表現を用いて内容を展開した点です。解説文も難しい言葉・表現は避けたり、UD フォントを使用することで、より多くの方が、内容を理解できるように配慮しました。

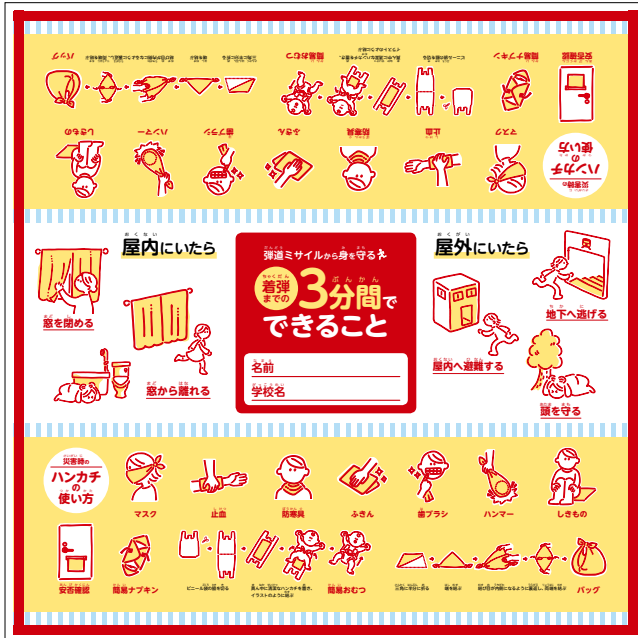
優秀賞

一般の部

弾道ミサイルから身を守る 着弾までの3分間でできること

株式会社フジプラス（大阪府）

土井 朱美、西村 美紀、守屋 穂奈美



ハンカチ



ポスター

工夫点

北朝鮮からの弾道ミサイルが着弾する恐れが高まり、政府や市民団体からミサイル着弾時の対処情報が多く発信されています。ミサイルが着弾するまでは10分、それを政府が確認し、Jアラートを鳴らすまで7分です。残された3分間でできることをお子様からご老人、色覚障がい者まで一目見て理解でき、周知してもらえるよう防災ツール用にアレンジ・デザインしました。

防災ツールとして、身近にあり、日頃から確認できるものとしてポスターを制作しました。可愛いイラスト、角の無い丸い枠や丸ゴシックのUDフォントを用いて、不安を和らげるデザインにしました。線を基調としたイラストを用いたことで、ご

高齢者にも見やすく、小さなお子様にも分かりやすくなっています。また、色覚障がい者にも配慮し、赤色・白色をメインに扱い、ポイントとなる部分に黄色を置く事で避難の際に行うべき行動を一目で確認できます。紙はユポ・サクシオンタック紙を使用し、テープや磁石などがなくても、簡単に貼ることができます。水に強く、何度でも貼り直しができるため繰り返し使用できます。

また、いつでも確認できるものとして大判ハンカチを制作しました。子ども向けにランドセルや鞆につけることができ、避難生活・災害時に実際に役に立つ大判ハンカチの使い方を取り扱い、実用性を重視しました。

講評

リーフレットやパンフレットだと戸棚や引出しの中にしまいがちで、いざという時に取り出せなかったり見つからなかったりすることもあるが、ポスターとハンカチで常時目に入ることと携帯性を持たせることを両立させており、さらに子どもにも分かりやすい絵を用いつつデザイン的にも優れ

ているすばらしい作品である。

世相を反映して弾道ミサイルに対する避難を扱った作品が今回はいくつも見られたが、その中で一番優れていた作品である。シリーズ化して、地震、火事の内容のものを作っても良いかもしれない。

優秀賞

一般の部

避難所 かんたん受付セット

大阪シーリング印刷株式会社（大阪府）

坂本 綾香、岡田 智子、杉原 啓二、山田 あゆみ、
米田 友規子、乗松 めぐみ、高 平平、田川 晶子、宮武 靖子



完成後の意見

このセットを使うことで、
本当に簡単かつ迅速に受付を
済ませることができるのか
という意見ができました。

実際に人数を集めて
検証を行いました

検証の結果、約 **90** 分の短縮が可能に

工夫点

普段あまり重要視される事はありませんが、実際には様々な役割とそれに伴う多くの問題を抱えた「避難所の受付」に着目しました。避難所で起こる様々な問題を広く解決でき、避難者が少しでも安全な場所に入れるための作品作りを目指しています。このセットひとつで、受付までの誘導から受付を通り、避難所へ入るまでの流れがスムーズに行えるようになっています。従来の避難所の仕組みや

使用されている物を精査し、根本的な仕組みから考え直してこの作品を作りました。

色覚障がいの方、支援が必要な方、外国人など関係なく、全ての人がわかりやすく簡単に受付を通ることができるよう、作った一つひとつのアイテムが色彩や言葉、使い方など細かい配慮をしています。

講評

災害時において、避難所を設営する際に行政が行わなくてはならないことは多く、作業の効率化が求められる。受付に必要な一連のものを揃えたこの作品のような製品があればよいと平時には考えるものの、実際に震災が起こり現場にはいってみると一番後回しになってしまい、かなり時間が経たな

いと作業が追いついてこないというのが行政の現状のようだ。制作にあたって実際にテストを行い、従来に比べ効率よく受付作業ができることが証明されているので、この作品が避難所に用意してあれば、設営当初からスムーズに受付作業ができる。製品化が望まれる作品である。

優秀賞

一般の部

誰でもわかるバスの乗車方法

大阪シーリング印刷株式会社（大阪府）

大町 瑞穂、松口 奈央、相田 智孝、籠谷 昌典、秋月 崇志、住吉 恵利花、増山 由佳、多保 正則

「誰でもわかるバスの乗車方法」は初めてその土地を訪れた人でも路線バスに乗れるようにサポートするアイテムです。バス停に行くところからバスを降りるまでを対象としています。



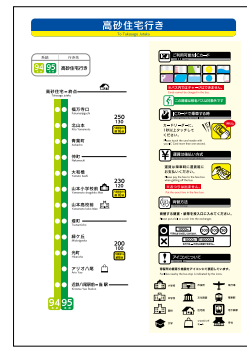
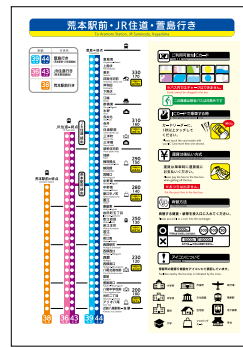
バスターミナル案内マット



バス乗り場総合案内



案内ライン



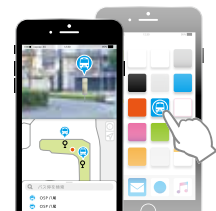
路線図・支払い案内



乗車位置案内マット



座席ステッカー



工夫点

複雑なバスの乗車システムを分かりやすくしました。乗車時に疑問に思っていた部分に焦点を当

て、作品にしました。

講評

路線バスは、乗車システムや到着時刻、バス停の場所などが分かりにくいいため、その地域の人でなければ利用しづらい現状がある。この作品は、様々な案内を体系化し分かりやすいデザインに統一することで、バスの乗車をサポートしようとする新

しい提案をしている。バス車内の運賃表示機や音声案内は外国語対応などが進む一方、街中のバス停などの案内は旧来のままである。バスそしてバス停は街中で目にするものなので、この作品のように一層のユニバーサルデザイン化が望まれる。



鏡文字がなおせる すくすくドリル

静岡デザイン専門学校（静岡県）

小田切 美希



| | | | |
|--|--|--|--|
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

工夫点

- ・持ちやすいサイズ
- ・シンプルなイラスト
- ・ひらがなで統一
- ・穴が左右にあいているため、利き手にあわせてま
とめられる。

講評

学習障害のディスレクシアにおける症状のひとつ、鏡文字（逆さ文字）を治すための作品ではあるが、ディスレクシアではない子どもの左右書き間違いの矯正にも役に立つ内容となっている。絵本のようにページをめくるリズム感があるので子ども

が遊びながら学べる一方、大人にとってはディスレクシアの早期発見と対応が可能になるので、子どもと大人の両方のストレス軽減につながる作品である。

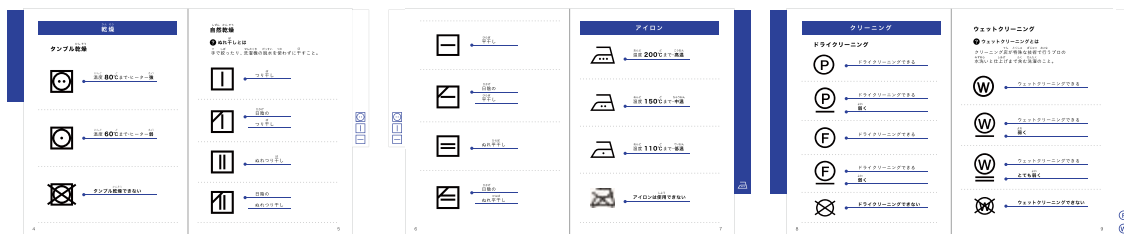
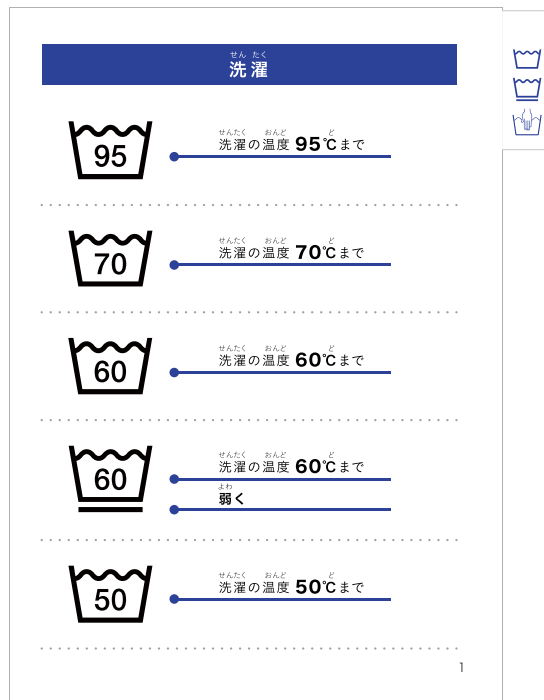
優秀賞

一般の部

洗濯辞典

静岡デザイン専門学校（静岡県）

杉山 小夜



工夫点

マークの見た目から探せるインデックスや、裏表紙のマグネットで、洗濯機などに貼ったまま見

ることもできます。

講評

平成 28 年に洗濯表示が国際基準にそったものに全面的に改正され、説明表や新旧対照表が多く作られているが、この作品はレイアウトが非常にシンプルで、柄や野線も洗濯マークに存在しているものを上手く使い、必要な要素だけを用いて一冊丸々デザインされている。右側にタグがあったりマー

クを羅列するのではなくマークの種類毎にページを分けていたりしているので分かりやすい。また、単に冊子で配るのではなく、コインランドリーに貼り付けたりできるなど情報の見せ方が工夫できている。ユニバーサルデザインらしい作品である。

優秀賞

学生の部

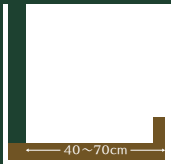
ホワイトボード黒板化プロジェクト

静岡デザイン専門学校（静岡県）

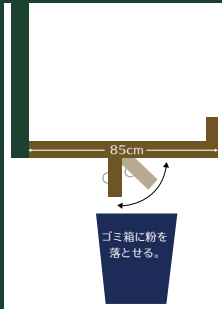
岡田 遥

提案 1 粉受けの形を変えた黒板を作る。

粉受けの平均的な幅



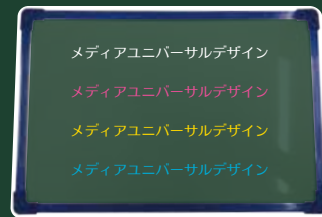
新しい粉受けの提案



従来よりも書く時にストレスにならない程度に少し幅を広く持たせ、一箇所底が開くようにする。幅を広くすることによってチョークで書いた時に落ちる粉を逃さないで受け切ることができる。落ちる粉を粉受けでキャッチする事で床の掃除を減らす事が出来き、粉受けに溜まった粉は、小帯で一箇所にまとめその下にゴミ箱を持ってきて開ければ掃除完了。

→チョークから出る粉の掃除をかなり楽にする事が出来る。

提案 2 黒板色ボード & チョーク色マーカー



ブラックボード、名の通り真っ黒なボードは存在するが、目に優しく見やすいはずの黒板色のボードは存在しない。黒板カラーとチョーク色のマーカーを作る事で、材質であるスチール特有の反射は気になるが、ホワイトボードと黒板のいいとこどりのボードが出来る。

工夫点

- ・自分が気になっていた事なので、しっかり研究しました。
- ・プロジェクトと銘打っているので、提案を二つ考えました。

講評

小中学校や高校とは異なり、専門学校や大学、一般企業ではホワイトボードが広く利用されているが、実際の見やすさから考えると実は黒板のほうが良いのではないかという問いから始まり、チョークの粉を取り除きやすい黒板や黒板の色をしたボー

ドといった具体的な製品化まで考えたコンセプト提案は、具体的な一個の作品を作ることとは違った意義がある。合理的配慮を考える上で示唆に富んだ作品である。



紙 湘南ナビ

山協印刷株式会社（神奈川県）
譲原 雅仁、富田 恵里香

講評

自社で製作しているフリーペーパーをMUD化した作品で、よくある色使いのものを少しずつ工夫し、色覚障がい者から見ても、色の違いが非常にわかりやすくなっている。UD化する際に、いかにもと思わせるようなデザイン、レイアウトに変えることが多いが、自然な状態かつ見やすくなっているという細かい工夫が優れている。

歩行者のための道路標識

朝日印刷株式会社（富山県）
上間 将史、菊井 美沙希、垣内 勇人

講評

歩道については、階段が何段ある、急坂がある、街灯がつかない時間帯があるといったことなど、歩行者が実際に行ってみないと分からない情報が多く、高齢者や外国人旅行者、子ども、女性にとって大変不便である。この作品は独自のピクトグラムも用いて、ピンクを基調とした歩行者用の道路標識を制作したもので、道路標識は自動車用のものばかりであるが、本来は歩行者にも情報提供が必要であることを考えさせてくれる。

チャオ新コース説明スライド

株式会社スタジオネ 63（東京都）
水城 由美子

講評

タブレットを使用してお客に自動車の定期点検プランを説明するときのデータの作品。料金プランを示す図表は多くの業種・業態で見られ、見づらく分かりにくいものが多いが、この作品は非常に分かりやすい。デザイン的には非常に普通の作品だが、図表としては色の使い方が適切で、文字は読みやすく、情報の処理の仕方において非常にバランスが取れている。

オフィス防災ハンドブック

株式会社一心社（大阪府）
制作部

講評

ここ数年、防災ハンドブックはブームのように自治体等で発行されているが、この作品はビルの管理会社がテナント向けに、オフィスに特化した独自の内容を盛り込んで発行しているという意味でユニークである。デザインはシンプルで色も多用していないが、要所要所には色を入れて必要な情報が目に入ってくるようになっている。Jアラートも既に取り入れており、非常にタイムリーな作品である。

凹凸書字教材

株式会社オフィスサニー（東京都）
高橋 淳一

講評

ディスレクシアの子どもにとって、紙に書いてある文字をなぞることは難しいが、この作品ではバーコ印刷によって文字の外側を盛り上げることで、はみ出さずにスムーズになぞりやすくしている。また、盛り上げりの高さもいくつか用意することで、繰り返しなぞれば盛り上がりがなくともなぞれるように工夫されている。目の不自由な人向けにバーコ印刷の凹凸を使った製品はこれまでもあったが、なぞるために使った作品は新しい。

Rules & Manners of Japanese culture

株式会社耕文社（静岡県）
杉浦 香代子、持田 美奈子、杉山 真由美、野田 三紀子、中井 俊彦

講評

外国人観光者向けのマナー紹介のパンフレットは多く作られているが、この作品はデザインが上手く、浮世絵風の絵柄で日本情緒を伝えつつ分かりやすい絵で描いてあり、作りこみが非常に良くできている。サイズ的にも持ち歩きやすく、非常にコンパクトな中に必要な情報が入っている。空港などに置いておくと非常に便利ではないか。



1日1問記憶めぐり ～まいにち思い出し日めぐりカレンダー～

静岡デザイン専門学校（静岡県） 木下 拓哉

講評

毎回コンペにはカレンダーが出品され、似通ったデザインの中で、色やフォントの見せ方で競い合ってきたが、この作品のように認知症防止として日めぐりカレンダーにたくさんのクイズを載せているものは今までになかった。健常者にも頭をリフレッシュさせるのによいのではないか。配慮が足りない部分があるのは惜しいが、UDフォントではない意外な字体を使いながらも読みやすい。アイデア勝ちの作品といえる。

irohashi

静岡デザイン専門学校（静岡県）
深澤 朱子

講評

お箸のマナーを扱った作品は毎年見られるが、この作品は完成度が高く、日本人の目も引く出来である。デザインが非常にきれいで、英語・日本語の文字の入れ方、色の組み合わせなどがよくできている。お土産として売れるようなパッケージまで作っており、細かい作りこみを評価したい。今回、平面的な作品が多かった中で、数少ない立体的な作品のひとつである。

cleanly

静岡デザイン専門学校（静岡県）
鈴木 宏和

講評

食事のときに、親指、人差し指、中指の3本だけにはめる手袋。食べ物をつかむのは、ほとんどこの指3本で行っていて薬指・小指は使わないので、それを省いた小さな手袋があれば便利ではないかという提案で、食事のときの手の動きを考えて作られているデザインである。食事だけでなく、工業製品を扱うときにも使えるのではないだろうか。

飲み物の種類が分かる 自販機用ラベル

専門学校浜松デザインカレッジ（静岡県）
黒釜 小百合

講評

日本の飲料は中身について何も書いていないか日本語の表示しかないものが多く、日本人はペットボトルのデザインや色で種類をある程度判断できるのかも知れないが、外国人には何の飲料なのか分からない。ピクトを用いて飲み物を9種類に分類したラベルのこの作品は、自動販売機だけでなく、貼るタイミングが難しいかも知れないが、コンビニでも使用すれば同様に外国人も間違えることなく飲み物を買うことができるだろう。

外国人向けバス停

専門学校浜松デザインカレッジ（静岡県）
小國 絵未佳

講評

バス停は日本語標記のみだったり、英語が併記されていてもごちゃごちゃして見づらかったりするので、いっそのこと表と裏で別々に標記してしまえという発想の作品。屋外の公共物に必要な要素が、書体、色使い、イラストに使われており、情報処理の観点からのデザインとして非常にクオリティが高い。路線が複数ある場合の対応について問題はあるが、バス停を外国人にも分かりやすくするという問題を訴求する点を評価したい。

グリーン・エスカレーター

志免町立志免中央小学校（福岡県）
武中 実花子

講評

エスカレーターの手すりを2段手すりにしようという提案で、非常に具体的ですぐにでも図面を起こせるような出来の作品である。実は、エスカレーターはユニバーサルデザインやバリアフリーへの対応がなされておらず、子どもは親と手をつないで乗るように案内されるのみで、ひとりで乗らざるを得ない場合への配慮はない。東京オリンピック・パラリンピックにおけるガイドライン等においても、階段に手すりには大人向けの高い手すりとして、子ども・高齢者・障がい者向けの低い手すりがある2段手すりを使用することが推奨されており、エスカレーターも同様に何かしらの対応を検討すべきである。

第11回メディア・ユニバーサルデザインコンペティション 受賞作品集

発行：2018年5月24日

発行者：全日本印刷工業組合連合会 / CSR推進委員会

発行所：全日本印刷工業組合連合会

〒104-0041 東京都中央区新富1-16-8

Tel.03-3552-4571 Fax.03-3552-7727

(URL) <http://www.aj-pia.or.jp/>

※本書内容を無断掲載・転載および不正使用は固くお断りいたします。

※本書によって発生した問題・トラブルに対してはいかなる場合においても一切の責任を負いかねます。

